

火山都市国際会議の豆知識 その四

火山都市国際会議島原大会事務局（☎65-5540）

11月19日から23日まで開催される火山都市国際会議は、国内外の研究者が自分の考えを発表、討論し成果を共有します。実際どんな雰囲気で行われるのでしょうか。皆さんはどんな会場を想像しますか。市議会や円卓で行われる会議などとはちょっと違うようです。

火山めぐりでは、2001年に2回目の火山都市国際会議が開催されたニュージーランドの火山を紹介します。



↑第4回大会（エクアドル）の会議風景

会議は、まず基調講演（会議の方向性を示す基本的な講演のこと。十二月号を参照）を主会場で聞いたあとそれぞれのテーマに分かれ中・小規模の部屋で具体的な発表・討論を行う形式が一般的です。島原大会でもこの形式で行われます。

主会場が一つ（島原復興アリーナ）、中・小会場が三つ（島原復興アリーナサブアリーナ、雲仙岳災害記念館）準備されます。

主会場は、一般的な講演会と同じような雰囲気です。中・小会場は、写真のようになります。中央に大きなスクリーンがあり、座長と発表時間を計る人の席があります。スライドは発表者

火山都市国際会議の会議室

が舞台上のパソコンで操作します。聴講者席には机はありません。できるだけ多くの人に聞いてもらえるような配慮からでしょう。

会議の進行

一つの会議は、約一時間の枠で三人程度の発表があります。持ち時間は一人十五分、一人の発表が終わったあと、五分程度の質疑応答の時間があります。

セクシヨン（時間程度）

発表	質疑応答
発表	質疑応答
発表	質疑応答
休憩	

自分の考えを十五分間にまとめなくてはならないので大変です。海外からはこの十五分間のために来る人もいます。聞く方も気が抜けませんね。緊張した討論の合間には、休憩時間「コーヒーブレイク」があります。コーヒーを飲みながら、会議の内容などについて語り合います。参加者の皆さんから笑顔がこぼれるひとときでもあります。

松島健博士と行く

世界の火山めぐり

（四）ニュージーランドの活火山

南太平洋の国ニュージーランドは、たくさんの火山がある火山島です。南北二つの島があり、北島に活火山が集中し、南島はアルプスのような非火山性の山脈が縦断しています。第二回火山都市国際会議が開催されたのは同国最大の都市オークランドでした。オークランドの市街地は阿蘇の米塚のような円錐台形の小山（スコリア・コーン）がた

くさんあります。これらは単成火山と呼ばれ、それぞれ一回の噴火で造られた火山です。最も新しい噴火でも四百年前のもので、今はきれいな公園になって荒々しい噴火当時の様子は想像できません。

北島の中央にはニュージーランド最大の湖「タウポ湖」が静かに満々の水をたたえています。面積は琵琶湖とほぼ同じです。しかしこの湖も一八六六年に大噴火を起こした火口の名残です。この噴火は過去五千年間で世界最大の噴火と言われています。タウポ湖の南方にあるロトルア湖は二十二万年前の巨大噴火のカルデラ湖です。

トム・クルーズ、渡辺謙の快演が印象に残る映画「ラスト・サムライ」は、実はニュージーランド北島西海岸のタラナキ火山の裾野で撮影されました。その美しい成層火山を、多くの人が富士山と思っただけではないでしょうか。

（執筆：松島健九州大学地震火山観測センター助教授・理学博士）



↑オークランドの単成火山